

年度 2007 学期:前期	曜日・校時 水 3	必修選択: 選択	単位数: 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (戦争のトラウマ) Society and History (Trauma of War)		
対象年次: 1・2年次	講義形態:講義	教室	
対象学生(クラス等): 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:安部 俊二 /Eメールアドレス:abe-s@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部新館 6階 652 研究室 /オフィスアワー:水曜 16時から 18時まで			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 講義のねらい : 20世紀は「戦争と大量殺戮の世紀」であった。ここでは、人間社会最大のストレスである戦争が人間にもたらす破壊的・長期的な心理的影響とそこからの回復の過程的構造をみる。「新たな戦前・戦中」とも言うべき状況下のわたし達には、単なる過去の問題ではなく現実の問題である。 講義方法 : ドキュメンタリー映像を中心に文学作品・映画などを《テキスト》に読む。なお講演も含む。 講義到達目標 : 戦争が人間にたいしてもたらす心理的影響を理解し、戦争への想像力を高めることができるだろう。言わば映像による「戦争の心理学」であり、ひとつの新たな戦争へのアプローチの試みである。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 講義内容・展開は世界情勢の変動(とくにイラク情勢)・受講生の要望によって変更・選択するが、以下の内容を予定。 まず、戦争の心理的側面を理解するために、最初に理論編として「戦争トラウマ」論を説明し、次に第一次・第二次世界大戦、戦後六十年の戦争がもたらした心理的 な戦争後遺症の実態を具体的にドキュメンタリー映像などをもとに検討する。 0. 戦争の心理的影響: 戦争トラウマ(第1・2・3回) 1. 第一次世界大戦とシェル・ショック(第4回) 2. 第二次世界大戦の戦争トラウマ(第5・6・7・8・9・10回) 強制収容所症候群、 沖縄戦 米兵と戦争神経症、 従軍慰安婦の戦争後遺症 中国戦線 日本兵の戦争神経症、 ヒバクシャ、 中国残留日本人 3. 戦後60年の戦争の戦争トラウマ(第11・12・13・14回) 朝鮮戦争、 ヴェトナム戦争症候群 韓国人帰還兵、 アフガン戦争症候群 カンボジア内戦、 旧ユーゴ紛争 バルカン症候群、 ルワンダ内戦、 チャイルド・ソルジャーの戦争後遺症、 湾岸戦争症候群、 イラク戦争 民営化される戦争、「9・11テロリスト」収容所 4. 定期試験(90分)(第15回)			
キーワード	戦争 心理的側面		
教科書・教材・参考書	教科書: デーヴ・グロスマン『戦争における「人殺し」の心理学』(ちくま学芸文庫・2005年) 小池政行『現代の戦争被害 ソマリアからイラクへ』(岩波新書・2004年) 参考書: 野田正彰『戦争と罪責』(岩波書店・2000年) エイブラム・カーディナー『戦争ストレスと神経症』(みすず書房・2004年) B・ラファエル『災害の襲う時 カタストロフィーの精神医学』(みすず書房・1989年) ジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』(みすず書房・1996年) 小西聖子『インパクト・オブ・トラウマ』(朝日新聞社・1999年) 前田哲男『岩波小辞典 現代の戦争』(岩波書店・2002年) 井村恒郎『現代病 おのれを失える人々』(光文社・1953年) 教材: 教材資料は必要に応じ配布します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験の結果(5割)と毎回鑑賞するドキュメンタリー作品を分析したもの(A4判1枚程度)の結果(5割)を総合して判断します。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)	開講時に参考文献を紹介し、またその都度関連文献・映像作品を紹介し、積極的にふれて理解を深めてください。		